







文芸欄



追悼ヘルベルト・フォン・カラヤン氏

音楽界 指揮界に於ける帝王 HERBERT VON KARAJAN (ヘルベルト・フォン・カラヤン) 氏が、黄金の一生の幕を七月十六日ザルツブルグ郊外のマニフにある自宅で閉じた。八十一歳だった。死因は心不全である。

吉本ばなさんの作品は初めて読む人にも全く抵抗がないといつてもよい。とても読みやすいのだ。

本もばなさんらしくしてとても素敵な本なのだ。季節が今の時期と合わないのだが舞台は夏の海辺の町である。

人間の心の奥の奥、社会の隠れた部分を抉り出す文学を怪物と呼ぶ。一般的にはなく好かれる事の少ない分野だがその新鮮さを秘めているといえる。

「TUGUMI」という本である。もう読んでみたいという人もあるかもしれないが、この本は...

つぐみと一夏の出来事や思い出を語りあがった一冊。どことなく海とつぐみの存在がうらやましい。

私が高校時代を過ごした昭和二十年代後半は、講和条約の成立で新生独立日本が第一歩を踏み出した。

家の跡継ぎのための教育を受けた。中学を卒業する頃にはほとんどの作物の作り方、手入れの仕方を覚えることができた。

私には生来ノンビリ屋で、卒業したら農業職員にでもなつて地域に残るつもりでいたが、父は責任を感じ、校長に無理を承知で普通科への転科をお願いした。

私は生来ノンビリ屋で、卒業したら農業職員にでもなつて地域に残るつもりでいたが、父は責任を感じ、校長に無理を承知で普通科への転科をお願いした。

「現在、新作の準備には入っていません。アニメの劇場作品は来年いっぱいやらない予定です。企画も未だ考えていないので、ぜひ分かっていただければ幸いです。」

「夜中一時過ぎの遊び人」へさきに行われた生徒総会は何だ。一般生徒の態度と、執行の方で予め質問者をつけて行くので、人たちらとある程度話を煮つめておいたらどうか。そうでもない、また会場は荒れるだろう。それにしても一般生徒は、辛抱できないから困ったものだ(打倒彰晃)。

スナ怪談「ある男がお墓のそばに住んでいました。人形怪談の秀作である。呪われた人形の家。挙げたものの他に二十七の短編と長編童話が一編ある。

「本」 怪談のスズメ TUGUMI 吉本ばなな

怪談は夏と相場が決まっているが冬に暖かい部屋の中で熱いお茶ですすむながら怪談のヒヤッとした感覚を楽しむのも良いものである。ぜひお試しあれ。

「青春雑感」 数学科 高林利夫先生

「魔女の宅急便」 宮崎駿監督にインタビュー

「青春雑感」 数学科 高林利夫先生

「魔女の宅急便」 宮崎駿監督にインタビュー

「青春雑感」 数学科 高林利夫先生

「魔女の宅急便」 宮崎駿監督にインタビュー

「青春雑感」 数学科 高林利夫先生

「編集後記」 今日(十二月二十五日、クリスマス)の羊です。白クリスマスというものを一度体験してみたいのですが、オリオン座M42を見ながらの青クリスマスというののも一つのメルヘンであります。さらさら、今夜は友達とまたは愛人と一緒に、メリクリスマス。